

各委員会の取り組み

総務常任委員会

課 題

人口減少社会対策の一つとして国がデジタル田園都市国家構想を推し進める中、本市のデジタル化の取組においては、出遅れ感があることは否めない。今後、第8次総合計画、新本庁舎の建設を控える中で本市の現状、他市の先進事例を調査し、本市の抱える課題を整理する。

ローを視野に入れながらシステムを構築していくことが必要であると考え。また、対話集会により、デジタルディバイド(情報格差)解消のための取組が急務であるとも感じた。

委員会での検討・協議の内容等

先進事例の調査として、『遠隔相談窓口サービス』の実証実験を実施した兵庫県三田市と住民異動手続きの効率化・簡略化に取り組む兵庫県三木市の視察をした。両市共に技術的な点について問題はないが、市民に浸透させ利用を促すことや開発したシステムを他業務に応用していく上で課題を残した様子であった。電子申請やキャッシュレス決済など一つ一つの技術ではなく、全体の業務フ

今後の委員会の動き

DX推進の取り組みは、市民サービスの向上と業務改善を目指し、市民にも職員にもメリットのあるものでなければいけない。国の政策である自治体情報システムの標準化の準備が進められる中、議会には、他市の先進事例の調査、研究による本市への提言等が求められる。また、本市の方向性を広く市民に発信するとともに、市民の多様な意見を集約し、フィードバックする役目を担うことが必要と考える。

経済建設常任委員会

課 題

多治見市は「自動車に頼らなくても移動できる公共交通づくり」を掲げ、幅広い関係者が協力し、知恵を出し合って地域公共交通について検討する多治見市地域公共交通会議を設置している。今後、第8次総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画と整合を図るとともに、地域にふさわしい公共交通とは何か、現状と課題について市民全体のニーズを捉え、慎重かつ迅速に進めることが大切である。

委員会での検討・協議の内容等

中心市街地および地域拠点に都市機能を集約するまちづくりを目指す多治見市にとって、それらの拠点間をつなぐ公共交通は大変重要であると考え。

本委員会では、路線バス、コミュニティバス、あいのりタクシー等の地域公共交通について多治見市が現状を把握し、課題に取り組んでいるか、地域の要望に沿った運行体系により成果が

出ているかなどを検証し、協議を行っている。

今後の委員会の動き

『公共交通について』をテーマに開催した市民と議会との対話集会には、多くの方にご参加いただいた。これは、多くの方が公共交通の今後に対し、危機感を募らせていることの表れと感じている。

同じ多治見市内でも、地域によって公共交通のニーズに違いがあるため、その地域の現状、課題をしっかりと捉え、それぞれの地域で求められる公共交通の在り方行政に訴えていくことが必要である。また、地域公共交通に対する今後の支援の在り方についても、交通事業者の意見を伺いながら、行政とともに議論していきたい。

さらに新しい交通手段として、ライドシェア、自動運転、次世代モビリティサービス等の調査・研究を行いながら、多治見市に合ったサービスを議論し、迅速かつ、慎重に進めていくよう提言したい。

各委員会の取り組み

厚生環境教育常任委員会

課 題

全国的にも、また多治見市でも不登校児童生徒の人数が年々増えてきている。国もその対策に本格的に乗り出し、「COCOLOプラン」を作成した。本市においてもこのプランの実行を含め、子どもたちが安心して過ごせる「学びの居場所」をできるだけ多くつくる必要があると考え、そのことも含め、これからの不登校支援のあり方を考えたい。

委員会での検討・協議の内容等

(1) 学びの多様化学校等の視察

不登校の現状や施策を学ぶため、多治見市立北陵中学校の教育支援室、「学びの多様化学校」である学校法人東京シュレー学園東京シュレー葛飾中学校と大田区立御園中学校分教室みらい学園中等部を視察した。笑顔で真剣に学んでいる子どもたちと懸命に関わる大人の姿を見て、不登校で苦しむ子どもたちへの最善の支援が大人としての責任であると肌で感じた。

(2) 市民と議会との対話集会の開催

上記のテーマについて、グループごとに、ワークショップ形式で意見交換を行い、「行政」「学校」「家庭」「地域」における課題を挙げ、その課題解決に向けた具体的提言をまとめ、発表していただいた。この提言を議会として真剣に受け止める必要がある。

今後の委員会の動き

子どもたちの学びの居場所は、フリースクールや「学びの多様化学校」等、施設の設置だけで確保できるものではない。経済的、精神的な支援とともに地域の大人の理解が必要である。

今後議会活動を通し、「学びの居場所」の確保に向け、さまざまな要望を行政に対し働きかけていきたい。さらに、学校に行かなくても、温かい心で接してもらえる居場所を地域につくることなど、地域住民の関わり方を、児童館や子ども食堂などとも連携し、議会も参加して検討していくべきと考える。